

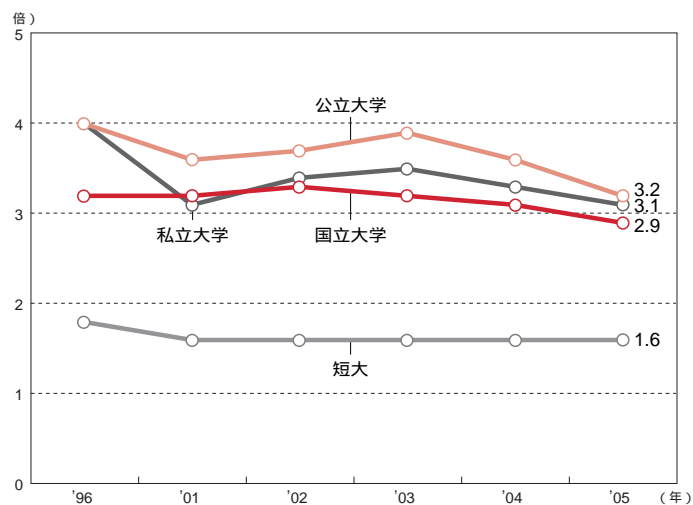
大学進学と卒業後状況

少子化の影響で大学へ進学しやすくなっている。

しかし大学卒業後に無業者となる人も少なくなく、より一層「入学後」が問われる時代といえるだろう。

#01 大短の実質競争率推移

大学全体の競争は軟化。進学しやすくなっている

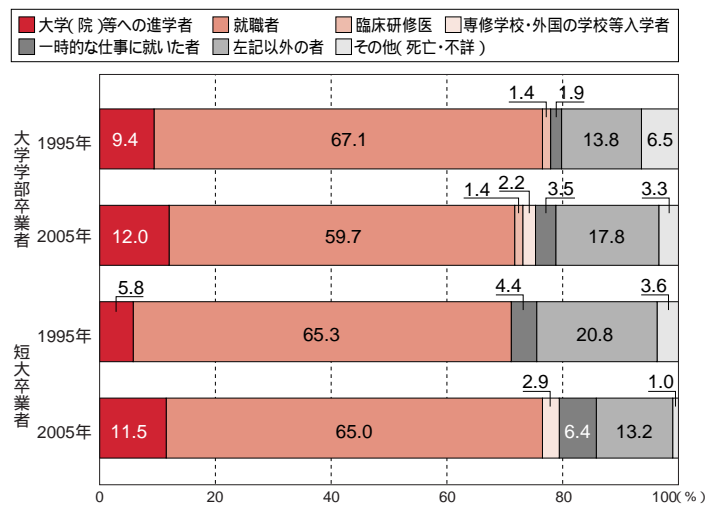


2005年、大学の実質競争率(合格者に対してどれくらいの受験者があったか)は3倍前後。この数年は緩やかに低下しており、大学入試の競争は軟化の傾向にある。ただし、入学者が定員に満たない大学もある一方で人気上位校は安定した志願者を集めており、全ての大学に入りやすくなったわけではない。短大は前年同様の1.6倍で、横ばいの状態が続いている。

小社「入試実態調査」

#02 大短卒者の進路状況

大学卒の就職率は60%、進学も就職もしない者が18%



2005年、大学卒業後に就職する人の割合は約6割で、10年前と比べると8ポイント近く減っている。進学も就職もしない「左記以外の者(無業者)」が2割近くまで増加した点も目立つ。また、短大卒業者の就職率は65%。10年前と比べると「大学(院)等への進学者」が増えている。

文部科学省「学校基本調査」
1995年「専修学校・外国の学校等入学者」は未集計。「左記以外の者」に含まれる